

令和2年度

熊本駅前看護リハビリテーション学院
学校関係者評価報告書

令和2年度 学校関係者評価報告書

1 はじめに

学校法人青照学舎が運営する熊本駅前看護リハビリテーション学院の学校関係者評価委員会は、学校評価に関する関連法令に基づき、令和2年度の自己評価報告を基本とした学校関係者評価を実施いたしましたので、ここにご報告します。

学校関係者評価は、学校自らが選任した教育関係者、業界関係者、卒業生、保護者等の学校関係者が、学校自らが実施した「自己評価」の結果について評価することを基本として行う評価で、ホームページ等に公表いたします。

本校といたしましては、学校関係者評価の結果を踏まえ、今後も学校関係者と連携・協力し、学校運営の改善・強化、教育の質の向上、教職員の資質・能力の向上を図って参ります。

2 学校関係者評価について

(1) 目的

学校関係者評価は、自己評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高め、また、生徒・卒業生、関係業界、職能団体、高等学校、保護者・地域住民など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善等を図ること等を目的とします。

(2) 評価のポイント

- ① 自己評価結果の内容が適切か。
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策は適切か。
- ③ 学校の重点目標や自己評価項目等が適切か。
- ④ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か。

(3) 評価期間

2020年4月1日～2021年3月31日

(4) 評価結果の公表

- ① 評価結果や今後の改善方策等を取りまとめ公表します。
- ② 評価結果は、次年度の学校運営や教育活動等について具体的に改善を図ります。

3 学校関係者評価委員会について

(1) 活動内容

- ① 自己評価結果の評価
- ② 学校関係者評価委員会の開催
- ③ 改善意見、助言
- ④ 施設等の確認

(2) 学校関係者評価委員会の委員、事務局

① 学校関係者評価委員 10名

委員氏名	所属名	役職名
山口 里美	公益社団法人 熊本県理学療法士協会	理事
牛島 由紀雄	一般社団法人 熊本県作業療法士会	副会長
松下 秀雄	一般社団法人 熊本県作言語聴覚士会	理事
波多埜 克宜	医療法人 相生会 にしくまもと病院 セラピスト課	課長
田尻 威雅	医療法人 富尾会 桜が丘病院 作業療法室	室長
飯村 知己	医療法人 朝日野会 十善病院	言語聴覚士
藤丸 由美子	独立行政法人 国立病院機構 熊本再春医療センター	看護部長
福山 裕士	熊本県立熊本農業高等学校	副校長
緒方 陽一郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院後援会	会長
池田 健志郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院同窓会	会長

② 学校関係者評価事務局（教職員） 9名

氏名	所属名	役職名
高野 茂	熊本駅前看護リハビリテーション学院	学校長
黒川 一也	熊本駅前看護リハビリテーション学院	副学校長
杉本 弥	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教頭
田中 秀実	熊本駅前看護リハビリテーション学院	事務長
岡田 玉子	熊本駅前看護リハビリテーション学院	看護学科教務部長
有働 正二郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教務部長代理
緒方 茂	熊本駅前看護リハビリテーション学院	理学療法学科長
大石 宝予	熊本駅前看護リハビリテーション学院	作業療法学科長
林 学	熊本駅前看護リハビリテーション学院	言語聴覚療法学科長

(3) 評価項目

- 基準1 教育理念・目的・育成人材像
- 基準2 学校運営
- 基準3 教育活動
- 基準4 学修成果
- 基準5 生徒支援
- 基準6 教育環境
- 基準7 生徒の募集と受入れ
- 基準8 財務
- 基準9 法令等の遵守
- 基準10 社会貢献・地域貢献

(4) 学校関係者評価委員会の開催状況

- ① 日時 : 令和3年6月7日(月) 14:00~16:00
- ② 場所 : 熊本県熊本市西区春日2丁目1-15
熊本駅前看護リハビリテーション学院
リハ棟3階会議室
新型コロナウイルス感染防止のため学校関係者評価委員会の学校での一堂に会した開催を中止し、当該委員会については年1回の委員会開催が職業実践専門課程の認定要件として求められていることから、Zoomを使用したビデオ会議での開催に変更しました。
- ③ 出席者 : 学校関係者評価委員 10名
学校関係者評価事務局 9名
- ④ 議題・内容 : 開会、事務局より挨拶
委員及び事務局職員紹介
職業実践専門課程に関する説明
学校概要説明(各学科別)
令和2年度自己評価結果についての説明
質疑・意見交換、閉会

4 自己評価結果に対する学校関係者評価、委員の意見

(1) 自己評価結果に対する学校関係者評価委員の評価、意見等を実施状況に照らし、以下の5段階で記載した。

- ・適切（実施）
- ・ほぼ適切（概ね実施）
- ・普通（問題や課題はあるが一通り実施）
- ・やや不適切（少し実施）
- ・不適切（実施していない）

(2) 委員の意見

学校関係者評価委員会での意見を各項目毎（基準毎）にまとめた。

5 評価項目毎の状況

評価項目の基準1～基準10までの状況は次のとおりです。

基準1 教育理念・目標・育成人材像	評価	ほぼ適切
-------------------	----	------

【委員の意見】

- ・後援会総会には何名ほど参加者がいて、どのような要望が将来構想として出ていますか。
→令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、後援会総会は開催していない。メディカル・カレッジ青照館の閉校にともない、熊本駅前看護リハビリテーション学院の再編・整備について説明しているが、特に保護者からの要望等はでない。
アフターコロナ、少子化社会も見据えて、知恵を出し合い保護者と教職員が連携を深めなければならないと考えている。

基準2 学校運営	評価	普通
----------	----	----

【委員の意見】

- ・評定3が多く散見される。課題と今後の改善策について、特になしと記載されているものについて検討が必要ではないか。
→評定3は評価としては「普通」となるので、何らかの取り組みを行い、改善していく必要があると思われる。今後話し合いを持ち、課題と今後の改善策を検討していく。

- ・運営組織において、課題と今後の改善方策はなく、適切に運営されているならば、評価は高くてもよいのではないか。

→法人、評議員会はコロナ禍により、十分な意見交換がおこなえなかった。学校運営のための組織整備については、会議録をまとめて法人にも提供し、課題等を共有している。

基準3 教育活動	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【委員の意見】

- ・夢の道しるべ事業について、卒業生や現場で働く専門職を呼んで、目指す仕事に対して学生が夢を持てたりするのはとてもよい教育であると思うので、是非活用していただきたい。

→令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったが、令和3年度は可能であれば卒業生や専門職の著名人を呼び後援会等を実施したい。

- ・「資格・要件を備えた教員を確保しているか」の評価が昨年度より下がっているが、教育の室の向上につながるものなので、各個人はもとより学校全体で取り組んでもらいたい。

→学校全体で取り組んでいきたいと思う。

基準4 学修成果	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【委員の意見】

- ・特になし

基準5 生徒支援	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【委員の意見】

- ・新型コロナウイルス感染症のこともあり、健康チェックは学校でもしっかり対応されていると思う。

- ・心身の健康相談に対応する専門職員は実際配置されているのか。

→スクールカウンセラーは配置しているが、健康に限っての相談員は配置していない。

- スクールカウンセラーの配置等、課題とその改善方策に記載されるとよろしいのではない
か。
- 保護者会の開催とあるが、去年は開催されているのか。
→ 去年は新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催はされていない。
- Web や Zoom で開催しているのであればその旨記載していただければ、この評定でいい
のではないか。
- 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているかについて、課題とその改善方
策に各協会や職能団体との連携を追記することで、卒業生の動向については把握できるの
ではないか。
→ 今後連携を深めていければと思う。

基準6 教育環境	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【委員の意見】

- コロナ禍において、実習受け入れ困難な病院もあると思われるが、学校としての基準はあ
るのか。実習先の状況に合わせているのか。
→ リハ学科の実習については、基本的には実習施設の受け入れ体制にゆだねている。
学校側に問題が生じた場合は学校の判断で中止することもある。
看護学科の実習について、実習先の施設が受け入れ可能だと判断された場合は、感
染対策を十分に指導したうえで、一日でも多く臨地へ立たせたいと思っている。有
資格者になった時に、感染対策がしっかりとれるよう、きちんとした指導の中で対
応できる看護師を育てたい。しかし、現場のリスクレベルにより受け入れには差が
ある状況である。病院の機能や診療の状況により、実習が無理だと判断された場合
は、学内実習へ切り替える。
- 防災・安全管理では、コロナ対策も安全管理といえるので、それに対するマニュアルの作
成はされているのか。
→ 新型コロナウイルス感染症対策については、学校内で一定の基準を設け、学生・教
職員ともに遵守するようにしている。
実習へ出る2週間前からアルバイトは中止し、行動履歴をさらに詳しくつける等、
緻密な健康管理を行うよう努めている。

基準7 生徒の募集と受入れ	評価	ほぼ適切
---------------	----	------

【委員の意見】

- ・特に意見なし

基準8 財務	評価	適切
--------	----	----

【委員の意見】

- ・特に意見なし

基準9 法令等の遵守	評価	ほぼ適切
------------	----	------

【委員の意見】

- ・関係法令、設置基準等の遵守の評定が下がっているが、何か理由があるのか。
→新型コロナウイルス感染症の影響により、教職員が研修へ参加する機会が減ったことに起因しているのではないかとと思われる。
- ・可能であれば、現状・具体的な取組等で、新型コロナウイルス感染症の影響により研修参加が不足していたが、職員間で情報共有を行っていたなどの記載があれば良いのではないかと思う。

基準10 社会貢献・地域貢献	評価	適切
----------------	----	----

【委員の意見】

- ・特に意見なし

6 総括

学校関係者評価を通して、本校の教育活動全般における課題点が明確化したことを受け大変有意義な活動であったと考えている。

各評価基準とも、適切または概ね適切であるという評価結果となったが、評価委員からのより良い学校を作っていく為の意見や提案は、今後の課題の解決や円滑な学校運営にとって大変

貴重なものであった。

今回の学校関係者評価委員会での各委員のご意見を教職員全体で情報を共有し、より良い教育機関となるよう努力していきたい。

以上